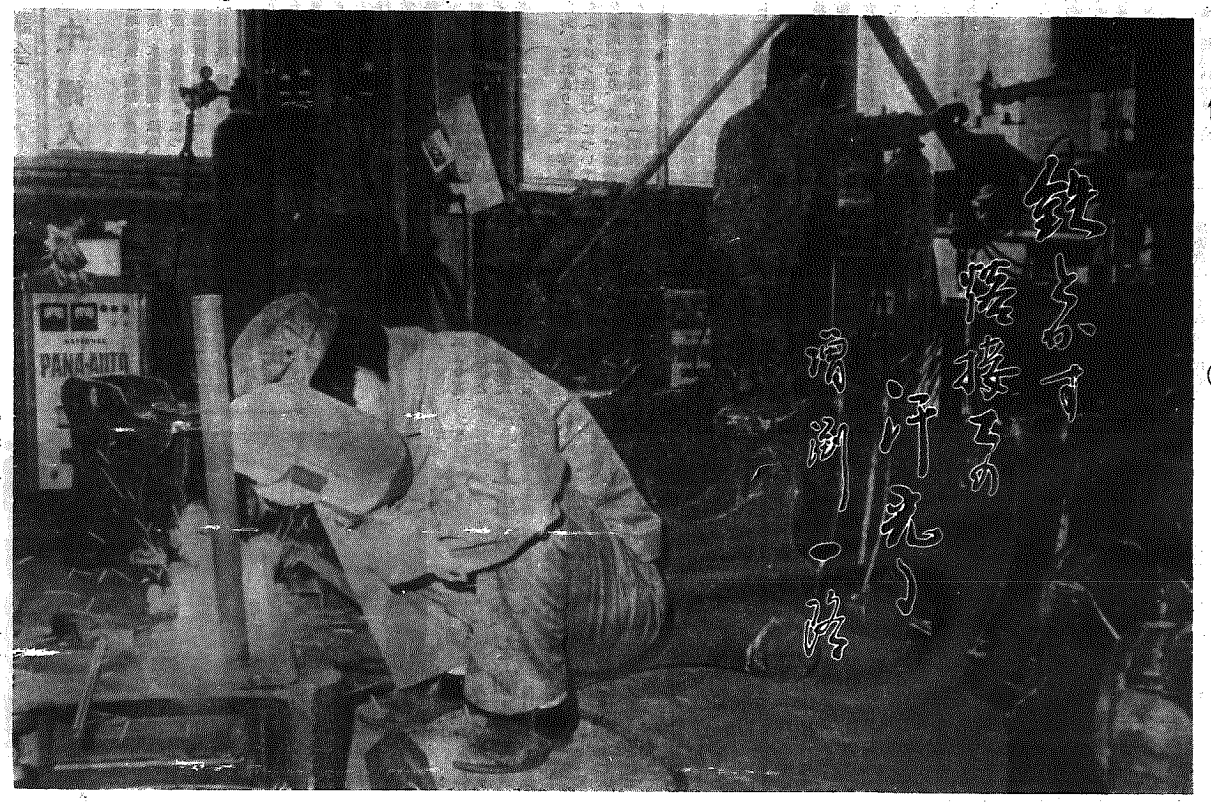
'75 7
No. 38
昭和50年7月1日発行
発行 横越村役場

広報 よこごし

おもな内容
1.7月15日農業委員選挙（P1）
2.6月定例議会で米価引上げ要望を決議（P2）
3.助役に建部、収入役に長瀬氏決る（P2）
4.統合小学校体育館起工式（P2）
5.青少年の非行防止は地域ぐるみで（P3）
6.がんばる横越健児（P4）



"働く"シリーズ⑥

(有)新潟ウェルド工場にて

七月十五日は 農業委員選挙

農業委員の統一選挙が、七月十五日（火）に行なわれることになりました。

今回の統一選挙は、三年毎の改選としては第九回目に当り、農業関係者にとって重大な意義があります。

今日農業をとりまく経済社会情勢は、年毎に激しく変化し、農業に課せられている国民経済的要請は、いよいよ重大となっており、農業振興と農業地域の健全な発展がなければ今後の日本経済の成長発展はありえないと信じます。

こうしたことから、農政の最前線に立つ農業委員の役割は、極めて重要とされており農業情勢が内外ともに厳しいとき、今まで以上に政策の新展開が望まれています。今回選挙される委員は、今後三年間の農政を担っていくにふさわしい識見と、実行力ある人材を広く選ぶことが強く求められています。

識見ゆたかな 実行力ある人材を

◇選挙による委員定数十九名

横越村の農業委員は、選挙によって選ばられるもの十九名と、農協推せんによるもの一名のほか、議会推せんによるもの二名、計二十二名で構成されています。今回任期満了によって選挙される委員は十九名です。

◇選挙期日の告示

七月八日（立候補受付開始）

◇選挙期日 投票時間

七月十五日（火曜）午前七時から午後六時まで

◇選挙権と被選挙権

(1)選挙権は、名簿登録者であること。（申請制度）

(2)被選挙権は、農業に関する特別要件（面積、耕作等）を具備するもので、選挙期日に満二十才以上に達しているもの。

◇開票立会人

候補者は、本人の承諾を得て立会人の届出ができる。届出は七月十二日まで。

◇開票参観人は一候補二名以内

七月十五日午後七時三十分から開票が行なわれますが、会場の役場議場が狭いため、一候補につき二名以内に制限いたします。

◇立候補届出等

(1)届出期間 七月八日から七月九日まで（二日間）

(2)受付時間 午前八時三十分から午後五時まで（7/8、7/9両日）

(3)届出方法 本人届、推せん届とも規定の文書で届出る。（文書は選挙管理委員会に用意）

(4)添付書類

(ア)戸籍抄本

(イ)所属政党証明書（党派を表示する場合）

(ウ)宣誓書

(エ)承諾書

(オ)名簿登録証明書

※ウ、エ、オは選管に用意

(5)立候補辞退

いったん立候補届をしたものが、立候補の辞退をする場合は、(1)の立候補の届出期間中でなければ、いかなる理由があっても辞退はできません。

◇選挙運動等

(1)選挙事務所 一か所開設可（届出を要す）

(2)選挙運動期間 届出の日から投票日前日まで

(3)事前運動は禁止

(4)夜間の街頭演説は禁止

(5)戸別訪問は禁止

(6)ポスター等制限なし

(7)選挙運動費用制限なし

ただし、買収、利害誘導のための支出等は違法である

又、社会通念をこえた実費弁償、報酬、寄附行為等は違法と判断される場合があること。

横丁橋

食べ物談義で恐縮ですが、視察旅行で九州へ行き長崎名物のチャンポンとしっぽくという料理を食べてきました。いずれも独特の味でおいしい料理でした。チャンポンというのは、魚貝やかまぼこ、豚肉、鶏肉などをいためてスープを加え、長崎独特の製法によるめん類のチャンポンを入れて煮込んだもので、あっさりした味で値だんも安く庶民的な食べ物でした。しっぽくというのは中国風に卓を囲んで大皿から取り分けて食べるもので「卓袱」とかき廣音で読むとしっぽくとなるのだそうです。卓は食卓、袱は食卓にかける布という意味だそうで、昔外国貿易の中心であった長崎で中国風オランダ風の料理がまじり合ってできた南蛮風なふんい気の料理でした。献立では小菜（口取りさしみ、あえものなど）ひれ椀、みそ椀、中鉢（豚の角煮など）で最後に梅椀といって汁粉が出て終りになります。こちらは値段も高く高級料理で長崎の人も食べたことがないという人もありました。

新潟県でもそれぞれの町で独特の味を持つ名物料理が旅行者を喜ばせていると思います。横越でものっぺい汁や鮭料理などはやはり名物料理の中にはいるのでしょう。

独特の味を持つ名物料理というものは楽しいものです。近ごろはご婦人の方々も毎日忙がしくなったと共に、世の中も便利になり廣でもすぐに食べられる廣製の品々が多くなってき、毎日の食事もそれで間に合うようになって、昔からの独特な味を持つ手作りの家庭料理など作られることが少なくなったのでないかと思います。それぞれの家庭でお金のかからない心のこもった名物料理を持つことも家庭を大変楽しくすることでしょう。（郷子）